



月刊 第 569 号

# 鐘に暮れ

## 鐘に明ける町

愈々冬本番の到来である。昨年(昭和31年)は十二月九日から降り始めた湿気が多い重い雪に海風にきたえ抜かれた笹の松もその重さに堪えかねて次々に枝折れし、思わぬ被害となつて特に松の

風が吹き始めるとそれはほかの季節の風とは確かに違う重苦しい黒々とした世界から吹き出す風の感じがするのである。冬は白の世界ではなくむしろ黒々とした冬と感じられるのが日本海の冬なのである。ずしんと戸をゆすって吹く風に忽ち松は唸りをあげて共鳴し、どうどうと海鳴りが応える。それが一つに重なり合う時この季節の地球の呼吸となる。「二月のオンシャカ様までの辛棒らこて」とじつと耐える習性もこの町に住む人々の人情の形成に大きく影響してきた筈で、ちつとやそつとでへこたれない忍耐力が自然の中で培われたのであろう。

風が吹けばガタガタと鳴った戸締りも今はサッパリとすっかりと固められてはいるものの、どこからか入り込む風に障子戸がこれ又冬独特の呼吸をする。私はそんな戸外と部屋との冬の呼吸の音を炬燵でじつと聞いているのが冬の一つの楽しみでもありません。別に昔をなつかしむと言ふ訳ではないのですが、こうして冬の音を聞いていると、熟し柿の冷たい味や、雪玉割りで相手の玉を幾つも打ち壊した玉を明日の勝負の為に軒下の雪に埋めておいたそのことが気掛りで仲々寝つかなかったことや、竹スキーで楽しんだ坂の氷り具合(時々近所のばあちゃんに灰を撒かれて翌日はたいなしになっ

ていたりした)のこと、友達と兎の足跡を目安に仕掛けたワナのことなど次々に思いおこされて一人で居ながら随分賑やかな思いの中にぼーっとしているのが実に楽しいのである。弥彦山三度の雪で里雪と言うが今年はまだ一度しか白くならないので里雪まではもうしばらくなのかも思われるが油断大敵である。そろそろどこか家庭でもお歳暮のやり取りが始まり年越しの準備のあれこれ心づもりの最中であらうか。年夜、年始と言つてもあまり大騒ぎしない此頃、とは言ってもやはり一年のしめくくりは大切である。その土地土地の大事な伝統文化が見捨て



海岸中央の公園に平和の礎の塔が建つ。昭和55年に建立され、内部に寺泊町出身の戦没者600余名の位牌が安置されている。



新潟方面から柏崎方面へ越後平野海岸部のへりを走る交通量の多い道路。寺泊から和島へかけて狭少な部分が改良された。



寺泊小学校の下、養泉寺の石段。段数50段。毎夕5時に鐘が鳴る。除夜の鐘も毎年撞かれる。石段両脇の松が美しい。



聖徳寺の石段は88段。  
石段を上り切ると左手に鐘楼があり、毎朝六時に鐘が鳴る。除夜の鐘も撞かれる。



町役場隣の明聖寺の石段は78段。  
子育ての鬼子母神を祀る堂がある。



保育所のある法福寺の石段は84段。  
かつては聚楽園の上にあった。旧い寺跡はおせきどうと呼ばれている。除夜の鐘が撞かれる。

られてはならない。日頃忘れられかけている食文化も年夜正月には大切に手がけたいもの。貧しい時代に大切に守られてきたものが豊かさの中で実に簡単に見捨てられてゆくのは何故なのであるか。せめて塩引き、きんぴらに田作り、のつべい、黒豆、それに寺泊独特のとと豆入りの具沢山の雑煮位は各家庭の味として残してゆきたい。

年末年始はお盆以来の里帰りを楽しみにしている人も多かろう。一家揃ってゆつくりと賑やかに年夜を迎える、そんなことが望まれている時とも思えるのだが。町の寺々では二年参りの方々を迎える準備もはじまっていることだろう。除夜の鐘を撞

### 越浦神社のこと

さとう・のぶひと

前号で「寺泊座」を取り上げました。さっそく好意ある誌友の方よりお手紙を頂戴し、当時の「寺泊座」の様子を教えてくださいました。無声映画時代の「寺泊演劇研究会」のこと、知らなかったことばかりでとても勉強になりました。ありがとうございました。いずれば紙面にて「寺泊座」を再び取り上げたいと考えております。その時、お手紙の内容について紹介させていただきます。気持ちの上でも、

実際上も慌ただしさが増して参りました。時間は直線的に流れているはずなのですが、この時期の時間はちよつど節目になっています。伝統的観念や因襲が一気に噴き出し、やれお威暮だ、大掃除だと追い立てられていきまふ。時間は短く濃密です。十二月は他の月に比べると仕事量は倍、長さは半分しかないように感じられます。

こんな気忙しさの中でも不思議なことに、無意識のうちこの一年を締め括ろうと、新しい年を迎えるための、心の準備をしているようです。因襲の束縛から自由になることは、どうやら不可能のようです。

この一年を締め括るには、この一年を振り返らなければなりません。そこで、2003年度最大の事件は？ と問うと――横綱はイラク戦争です。

二十世紀は「戦争の世紀」と呼ばれ、その悲惨さを踏まえて非戦、反戦を誓ったはずなのですが、どうしてこうも忘れっぽいのでしょ。二十一世紀もまた「戦争の世紀」になるのではないかと暗雲立ち込める年になってしまいました。

軍事力と金融を梃子にしたグローバルゼイション。アメリカは「世界の警察」が行き過ぎて、「帝国」になったというのがもっぱらの見解ですが、欧米諸国の人々は一般的に、ギリシャ・ローマ文明の後継者であるという誇

りを持っています。

八月から十月にかけて、上野の東京国立博物館において「アレクサンドロス大王と東西文明の交流展」と題する展覧会が催されました。今年見に行った展覧会の中でも、印象に残るものでした。

紀元前四世紀、マケドニアのアレクサンドロス大王はペルシア帝国を滅ぼし、エジプトから中央アジアに至るその版図をことごとく征服しました。「アレクサンドロスの東征」です。これを契機として、ギリシャ文明は地中海東岸から中央アジア、インド亜大陸に至る広い範囲に伝播し、在来の伝統的文化と融合したヘレニズム文明の隆盛をも



### 小波会忘年句会詠草

兼題 霜月・ストープ他当季

霜待月

落人村の藁の屋根

小形 美代

霜月や

落葉松林夕日透け

江原 汀子

霜月や

くどきの少し多くなり

大越 碧水子

ひと日雨

降りて霜月ゆかむとす

斎藤 紫苑

霜月や

妙見堂の海難絵馬

外山 きよし



円福寺の石段は48段。  
石段を上ると右側に「葦酒山門に入るを許さず」の文字  
が刻まれている。

霜月に

よき日和あり仲間あり

小島 冬扇

ストロップの

赫さや夕の飯仕度

外山 海子

ストロップを

囲み競り待つ魚市場

加勢 白汀

ストロップを

一人占めして老いにけり

小島 温石

椅子一つ

買ひあぐねある師走かな

中村 流瓢

奥の院

散紅葉着る座禪石

能登 頑牛



長善寺の石段は69段。  
上から石段を撮ればこんな具合になる。  
寺泊の寺は皆眺望抜群。

どの畑も

今年は大木大根かな

水沢 蕉子

軒先に

われのつくりし塩引きを

竹内 霍山

部屋を知り

春を誇るも冬薔薇

内藤 蓮子

### あしがき

今年もいよいよあと二週間を  
残すだけとなりました。  
誌友の皆様には如何な年であ  
りましたでしょうか。「日々是  
好日」を心がけたいものです。  
いつも遅くれ勝ちの拙文に激  
励又御後援を頂き感謝申上げま  
す。御礼領収の御連絡を差上げま

るのが立前ではあります。紙面  
掲載でそれに代えさせて頂きま  
すことを御諒承下さい。時々間  
違いもございませうので遠慮なく  
お申出頂きますので遠慮なく  
先日編集会議を兼ねて忘年会  
をいたしました。小川弘子さん  
隆さん写真担当の松田さんに佐  
藤さん中村の五人組で協力し合っ  
ております。

最近特に写真についてのお手  
紙を沢山頂戴しますので担当松  
田さんに頑張ってもらいま  
す。今月号はお寺特集になりま  
したが除夜の鐘、二年参りへの  
お誘いもかねての心づもりであ  
ります。

新しいバイパスが開通して随  
分道路事情も改善されることに



最後に大宮の石段の登りである。  
寺の最高120段を抜いて124段。  
さぞ掃除が大変と思われらる。

毎月二十日発行

寺泊ふるさとだより

誌代税共(百円)

編集人 中 村 興 樹

発行人 新 潟 県 寺 泊 町

発行所 中 村 興 樹

ふるさとだより

郵便番号 九四〇一二五〇二

ダイヤル局番 〇二五八七五

電話 〇二〇二九番

振替番号 〇六二〇三三九七五

印刷所 吉野印刷株式会社